一誌一句（受贈誌６・７月号他より）

米田　透　抄出

無住寺に遍路くつろぐタ立あと　（加里場）　井上　論天

脱稿の眼にしみとほる若葉光　（　和　）　名和　永山

手を繋ぎ園児の散歩つくしんぼ　（あかざ）　池田恵美子

春の昼くるくるパスタ巻き余り　（対　岸）　今瀬　剛一

ゲルニカのまたよみがえる春の雷　（海　原）　安西　篤

ジャーニーの途中じゃ蛇は穴を出る　（歯　車）　前田　弘

春逝くと遠まなざしの観世音　（太　陽）　吉原　文音

菜の花や玩具のやうな一輌車　（深吉野）　深沢　暁子

栗の花役小角が空を飛ぶ　（鷗　座）　松田ひろむ

錯乱の国や熊ん蜂の羽音　（好　日）　髙橋　健文